

費用対効果算出説明書

二級河川萩間川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省河川局 平成17年4月)

総括表

総便益 B	[治水事業を実施しない場合の被害額]－[治水事業を実施した場合の被害額]+[施設の残存価値]	154.81億円
総費用 C	[建設費]+[評価期間内に必要な維持管理費]	14.43億円
B / C		10.72

総便益

○治水事業の有無による被害額の差分
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間65年(整備期間15年+50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値
評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned}
 B &= \Sigma \text{年平均被害軽減期待額} + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n \\
 &= 154.50\text{億円} + 0.31\text{億円} \\
 &= 154.81\text{億円}
 \end{aligned}$$

※ 被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※ 年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※ 整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

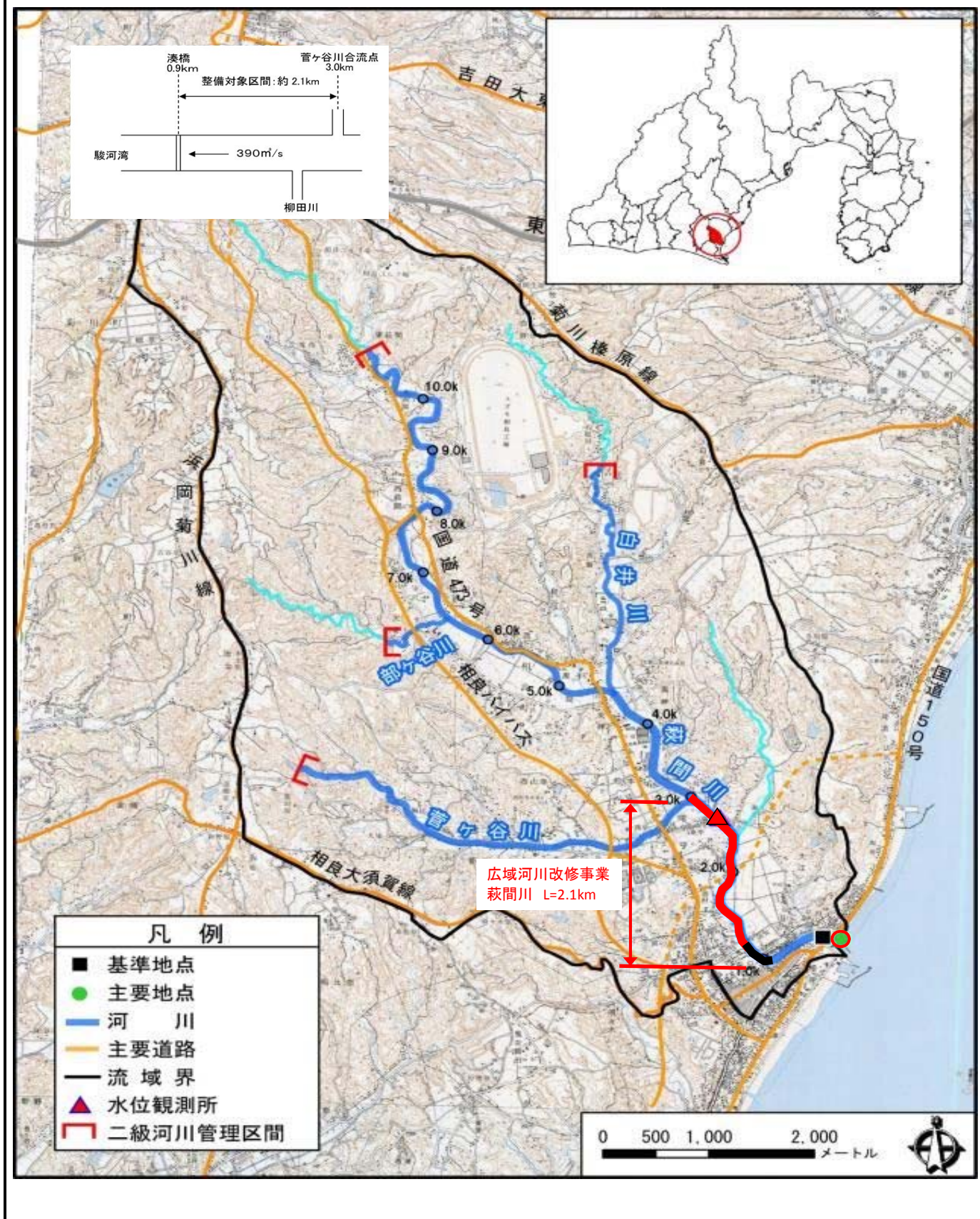
○事業建設費
各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費
各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。
建設費の0.5%/年、評価対象期間：65年

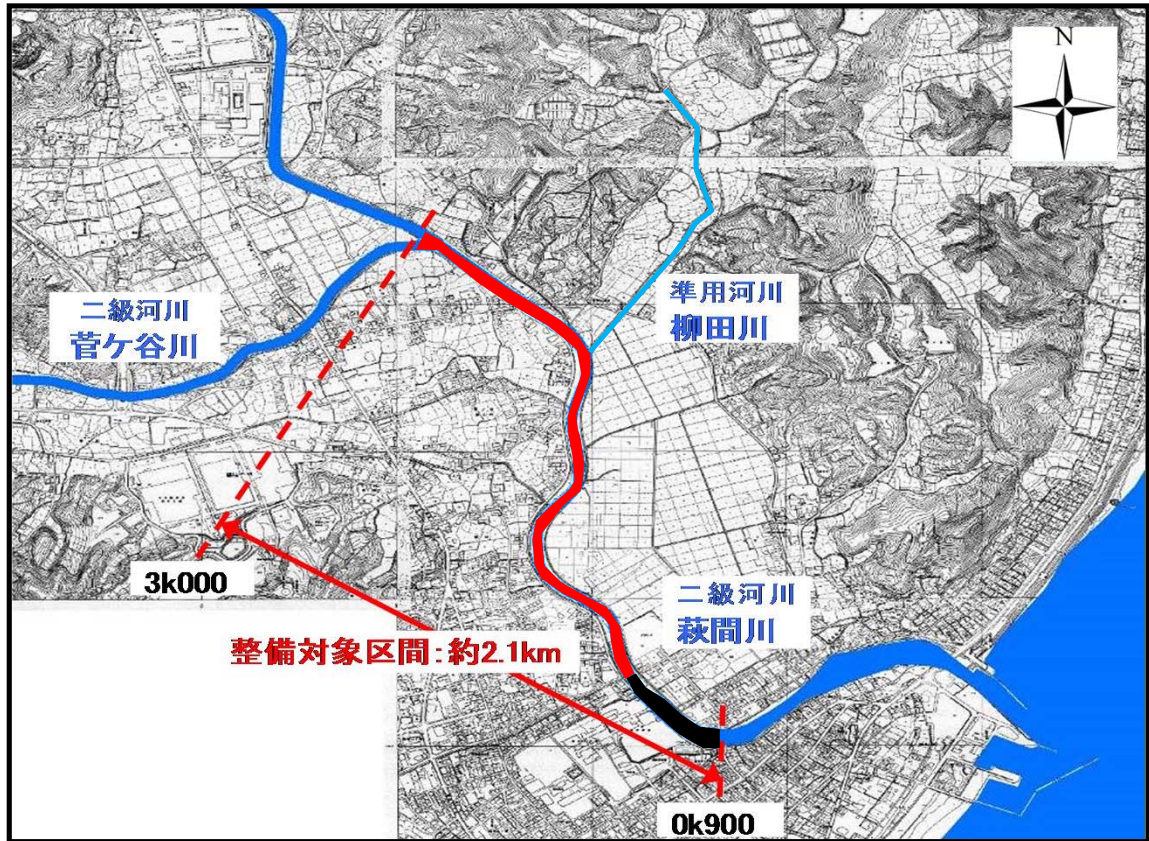
総費用

$$\begin{aligned}
 C &= \Sigma \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\
 &= 13.08\text{億円} + 1.35\text{億円} \\
 &= 14.43\text{億円}
 \end{aligned}$$

萩間川 位置図

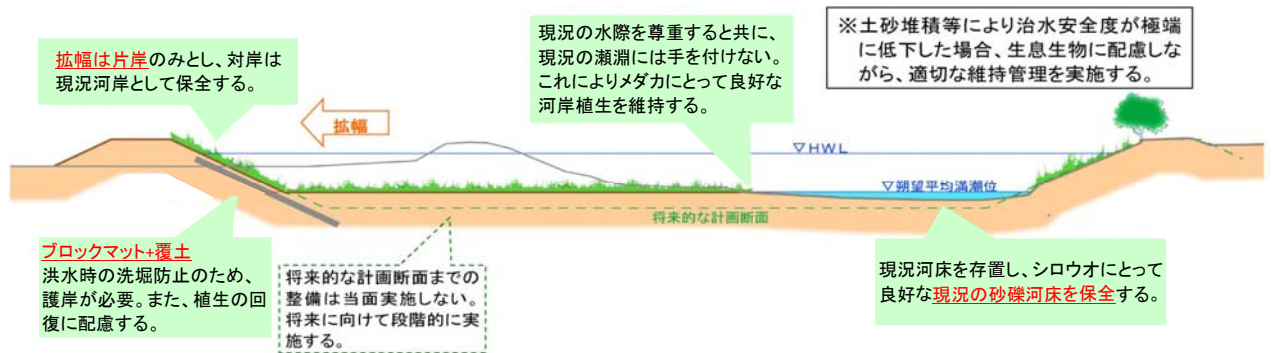


概略平面図

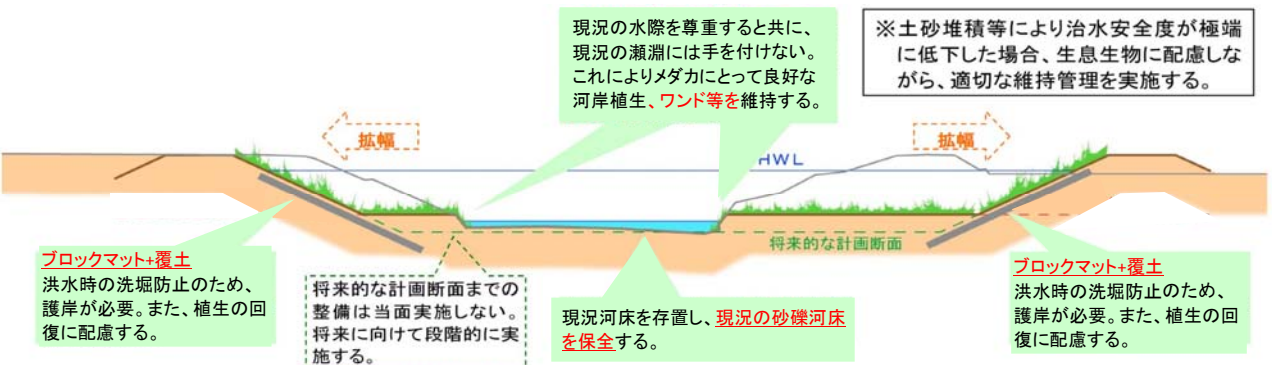


標準横断面図

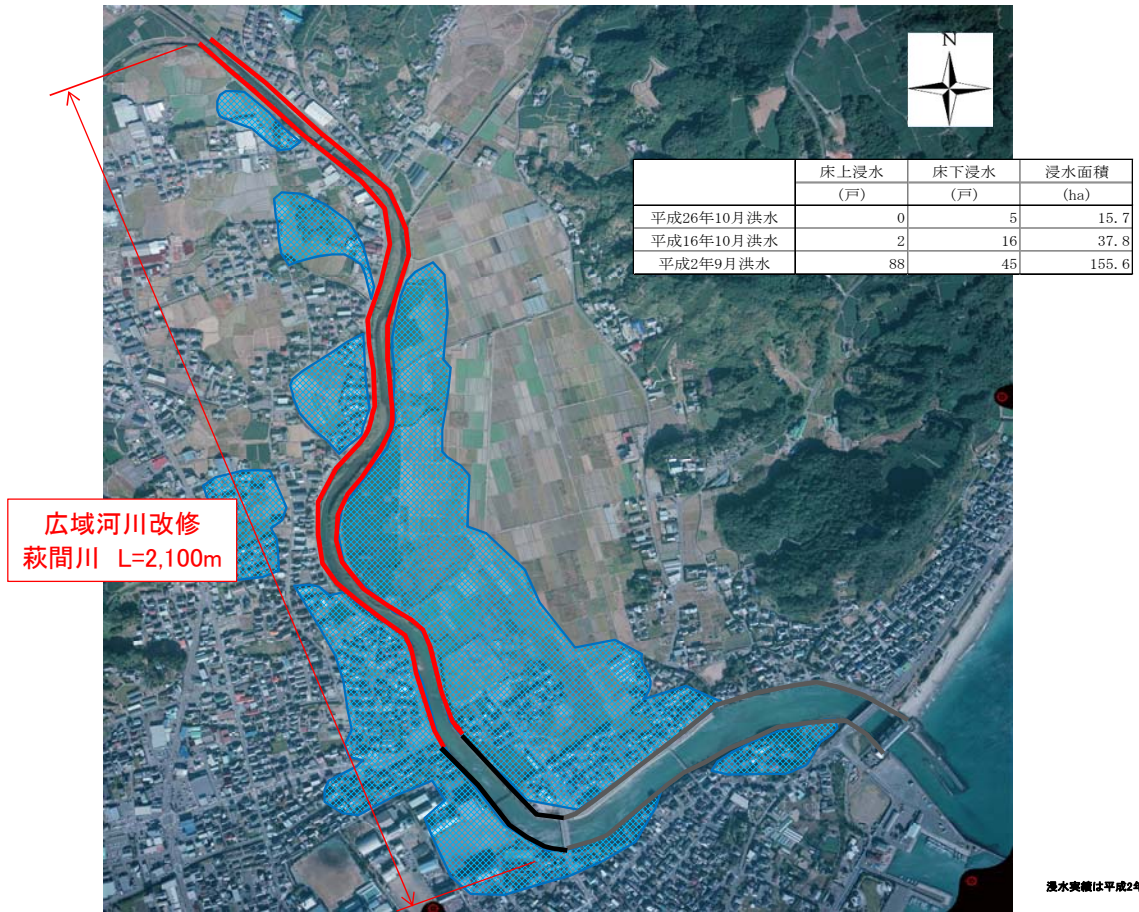
0k900～2k400



2k400～3K000



航空写真



浸水被害の状況



平成2年9月洪水 大江・大沢地区（新橋付近）

改修区間の状況

湊橋より下流側：河口から1.0km付近



湊橋より上流側：河口から1.0km付近



未改修区間の状況

東中橋より上流：河口から2.7km付近



河口から2.2km付近



河口から1.8km付近

